



みどりの子

令和7年10月号

所沢市立荒幡小学校
校長 小林 雅行

失敗したっていいじゃない！

長い夏休みが終わり、早くも一ヶ月が経ちました。9月に入っても猛暑・酷暑が続き、また例年以上にゲリラ降雨・落雷があり、地球温暖化がここ数年で加速してきていることを感じずにはいられませんでした。10月は台風の影響も避けられません。引き続き、子供たちの安全を最優先に学校運営してまいります。保護者、地域の皆様におかれましては、引き続き温かいご支援をいただければ幸いです。

さて、2001年、カナダ・エドモントンで開かれた世界陸上で、日本人初の短距離種目（400mハードル）で銅メダルを獲得した「為末大」選手。

ある学校の「走り方教室」での一場面。実際に走り方を指導した後の質問タイムでのこと。6年生の児童が『失敗したとき、どうしていますか？』と為末選手に質問しました。為末選手は次のように答えました。

大きな失敗は、2000年のシドニーオリンピックの時に転んだことでした。気がついたら空が見えていました。そして予選落ちしてしまいました。その時にとても落ち込んだけれど、ふと、よく読んでいた漫画の主人公のことを思い出しました。どの漫画の主人公にも必ずピンチが訪れます。そして、ピンチを脱出できています。だから、自分もこの後、結果を出せたなら、とてもかっこいいストーリーになるのではないか。こう思い直して頑張ることができました。

その翌年、見事、世界選手権で銅メダルを獲得しました。

また、現パナソニック（旧：松下電器産業）の創業者である故 松下幸之助 氏は、

失敗したところでやめてしまうから失敗になる
成功するところまで続ければ、それは成功になる。

と言っています。この2つの例からも

「目的をもって、挑戦し続けることが、どれだけ大切なのか」

ということが分かります。

今日の世の中では、「最近の子供たちは弱い」「失敗すると直ぐめげてしまう」「そもそも失敗するようなことには挑戦しない」といった声が聞こえてきます。また、親の目線では、「失敗しないように先回りする」「失敗しそうなことには、そもそも挑戦させない」といったことも見受けられます。

学校や家庭においては、「失敗としっかりと向き合わせ、そこから何をすべきなのか、どうすべきなのかを考えさせ、継続した取組を陰で支える」これこそが、今日に求められる教育観なのではないでしょうか。

令和7年度の折り返しとなりました。引き続き、子供たちの健やかな成長のために教職員一同、全力で支援してまいります。今後とも、学校教育に際し、ご理解、ご協力の程、どうぞよろしくお願ひいたします。